

イ 学校関係者評価結果等

<p>学校関係者評価を実施した主な評価項目</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校内見学及び授業参観への参加 ・令和7年度学校概要 ・各部（小学部、中学部、高等部）の教育について ・学校運営上の諸課題について ・令和7年度学校評価アンケート結果について
<p>自己評価結果について</p>	<p>保護者・教職員とも、児童生徒の学びに関する項目、保護者・学校間の連携に関する項目、安全・安心な教育環境整備の項目で高い評価を得た。各学習グループの授業において教職員が児童生徒の実態に合った授業を工夫して行ったこと、「個別の教育支援計画」等の作成を通して保護者と指導や支援の方法を共通理解できるようにしたこと、日頃から安全な学習環境が保持されているか、教職員が注意深く観察してきたこと等により高い評価につながったと思われる。</p> <p>一方で、「センター的機能の充実」「悩みや問題への適切な対応」「進路指導等の提供」の項目は、「わからない」に回答する方が多かった。</p>
<p>今後の改善方策について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業改善をテーマにした研究を進めることにより、チームで授業づくりに取り組むよさを実感できた教職員が多い。次年度も教職員が様々なアイデアを出し合い、学校がさらに楽しい学びの場になるように協働していく。 ・センター的機能については、学校が地域において果たす役割であり、実際にどのような活動をしているかを保護者は知る機会がないため、毎年「わからない」を選択する方がどうしても多くなってしまふ。保護者に実施するアンケート項目の見直しについても、今後検討していきたい。 ・悩みや問題への適切な対応は、日頃から児童生徒の様子の変化を捉えて家庭と情報共有したり、児童生徒が相談しやすい関係づくりを心掛けたりするなど、丁寧に対処していく。 ・進路情報等の提供については、各部の進路懇談会や進路だよりの内容の充実、教員用の「進路ガイドブック」を活用して教職員が保護者に進路指導やキャリア教育について説明できるようにしていくことを行っていきたい。
<p>その他（学校関係者評価委員から出された主な意見、要望）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・開校時より児童生徒数も増え、障害の状況、保護者の考え方等も多様化している中で、学校が一つになって対応していくことが大切である。今回の結果を大切にして、今後状況に合わせて変化して行ってほしい。 ・校内研究をはじめとする様々な取組について、取り組むだけでなく、成果を発表することが大切であると考えている。その中でできあがった校内システムと、それを活用できる人材の育成、両方を整えていく必要がある。今後期待している。
<p>学校関係者評価委員会の構成及び評価時期</p>	<p>学校関係者評価委員会の構成 … 学校評議員6名、校長、教頭、総括事務長、部主事 評価時期 … 学校評価計画（5月下旬） ・年間評価（2月下旬）</p>

